

# 2 学年通信

新宮町立新宮東中学校  
令和8年3月18日 第100号  
文責:江頭 俊輔

## [卒業証書授与式]

3月13日(金)に卒業証書授与式が行われました。当日は在校生の代表として2年生も参加し、3年生の卒業を見守ることができました。3年生の姿を見ていると、彼らにとっての「歴代最高の卒業証書授与式」を創り上げることに2年生も貢献することができたと江頭は確信しました。体育館をはじめとする式場の準備にも丁寧に取り組んでいた姿が印象的です。事前学習・準備を通して、2年生も「みんなで創る」素晴らしさを実感できたのではないかと思います。来年の姿を想像しましょう。そして、ありがとう!

## [たった一度でいい]

第2回の卒業式学習の際に哲学者ニーチェの話をしたのを覚えていますか?不安定な社会を生きていく上で哲学者ニーチェの思想は、私たちにとても勇気を与えてくれます。是非、学んでほしいと思っています。

さて、哲学と聞くとなかなかとっつきにくい雰囲気がありますが、中身はとても簡単です。「なぜ?」とか「そもそも?」という人間的な疑問を追求するのが哲学です。偉大な哲学者は何人もいますが、その中でもニーチェは格別です。(みなさんの言葉で言うと、SSSランクです。最強、最高、原点にして頂点!)

大前提として、ニーチェが生まれたのは1844年、今から200年ほど前です。通信1枚では語り切れないニーチェの魅力を名言とともに江頭の解釈満載、ファッショナブルに伝えていきます!

神は死んだ  
(ニヒリズム)

ニーチェの最も偉大な点の1つが、それまで絶対的な価値観として信じていた「神」を否定したことです。「神」というとみなさんには大げさかもしれません。神の否定とは、「人生に意味なんてない」「信じられるものがなくなった」そんな状態のことです。これを「ニヒリズム」と言います。中学生時代は、ニヒリズムに陥りやすい時期ですよ。頑張っても意味ない」「どうせ、無理やん」と思いがちですよ。あれニヒリズムです。ニヒってます。思春期はニヒリの連続です。

江頭がニーチェの考えで一番好きなのが「ルサンチマン」です。これは「弱者が、自分が弱いことを正当化し、強者や優れた人を『悪』として恨む心」のことです。江頭が「ルサンチマンだな〜」とよく思うのは、SNSで有名人をたたいている人を見るときです。いわゆる「炎上」。これは、ある程度、その界限で有名でなければ起きません。(フォロワーもいない江頭がSNSで何を言おうが、炎上しません。切ないです。)ニーチェはルサンチマンに陥ってしまうのは、「自分の力で自分の価値を見いだすことができていない」からだといいます。他人の価値の軸で自分自身を判断し、「弱者」と自分を見なしてしまうことで、ルサンチマンに陥ります。いわゆる「悪口」もルサンチマンなことが多いです。

弱者の怨念  
(ルサンチマン)

たった一度でいい  
(永劫回帰)

ニーチェは「もし人生が永遠に続くとして、あなたはその人生を愛せますか?」と問うてきます。(永劫回帰【えいごうかいき】) さて、あなたはどうか?不安定な社会で、「どうせ意味ないやん?」とニヒってしまことが多く、ちょっとしたことで自分を弱者と見なし、強者を攻撃するルサンチマンに陥りそうな人生が「永遠に」続くとしたら、どうですか?このニーチェの回答こそ、

江頭が卒業式学習の中でも紹介した「たった一度でいい、魂が震える瞬間があれば、それだけで人生を肯定できる」です。難しそうに見えますが、簡単です。「魂が震える瞬間」は自分の価値観で決めることができます。それができる人をニーチェは「超人」と呼びました。超人になろう。哲学って面白いですよ!